

なぜなに やまもり

山や森についてもっと知ろう!

スギの新品種「特定母樹」新登場です

スギの品種として、これまでに成長や樹形がすぐれた「精英樹」、雪による根本曲りが小さく多雪地でも成長が良い「雪害抵抗性」、花粉量が少ない「少花粉」といった品種が開発されてきました。それらに加えて、近年新しく登場したのが「特定母樹」です。今回は、山形県で今年度から種子の採取が始まるスギの新品種「特定母樹」について紹介します。

1 これまで1950年代から長い年月をかけ試験研究を重ね、「精英樹」や、精英樹同士を交配した子供世代の中でより成長が良い「第2世代精英樹」が開発されてきました。



3 「特定母樹」は成長が早く、より多くの二酸化炭素を吸収するため、地球温暖化対策に貢献します。また、花粉量が少ないので、国民病とも呼ばれる花粉症対策にも貢献します。



2 優秀な遺伝子をもつ「精英樹」や「第2世代精英樹」の中から、更に「成長量が通常の1.5倍以上」「材質が優れている」「花粉量が通常の半分以上」といった厳しい基準を満たす格別に優秀な個体を、農林水産大臣が「特定母樹」として指定しています。



4 山形県では、令和5年秋に初めて「特定母樹」の種子が採取され、令和7年度からその苗木が流通する予定です。将来的には、流通する全てのスギ苗木を、「特定母樹」由来の苗木とすることを目指しています。



山形県では、様々な課題解決に資する「特定母樹」の早期増産に取り組んでいきます。

企業だって 森づくり♪

株式会社朝日相扶製作所 編



株式会社 朝日相扶製作所
取締役 経営管理部長
佐藤 淳一さん

■朝日相扶さんはどんな企業ですか？

私たちはイスやソファやテーブルを中心とした家具の製作を行っている会社です。かつて、朝日町では出稼ぎが多く、地域の課題となっていました。工場・工業を誘致するために当時、町議会議員であった阿部宗一郎が創業に至りました。弊社の特徴としては、自社ブランドを持たず、他社ブランド等の製品を製造するOEMという形をとっていることです。国内外の約80社の家具を手掛けているので、中には皆さんが聞いたことのある有名ブランドもあるかもしれません。ニューヨーク国連本部の会議場にイスを納品したこともありま

■活動を始めたきっかけは何でしょうか？

私たちは、木、特に広葉樹を使って家具を造るものですが、ブナ林の保全をしたいと考えていたところ、県から絆の森のお話があり、それがきっかけとなりました。本来は会社がある朝日町で活動したかったのですが、活動に適したブナ林がなかったため、白鷹町のふるさと森林公園内のブナ林で活動しています。平成25年から森づくり活動を始め、かれこれ11年目になります。木を使っている社員が、木が育つ過程を実際に見るチャンスにするため、植樹や下刈り等を行っています。



県産のブナ材で造られた椅子

■参加者の反応は？

ほぼ義務みたいなのなので(笑)。大変だけど、木を植え、育てるにはこんなにも時間と手間が必要だと身をもって理解してもらえ、貴重な体験だと思っています。



下刈りを頑張る職員

■目指すところは？

活動を継続していくことです。ブナを使ってイスを造る。ブナだっけ植えて2年で使えるようになるわけではないんですよ。現在、弊社で使っているブナ材の樹齢は数十年から約100年で、イスの背もたれや座面を1枚の板で作ることができるような板が取れます。



100年物の材を目指して!!

私たちは、そのような材が欲しいわけですね。そして、100年かけて育った木を使って製品を造るなら、その製品も100年間持つようにしたい。安いイスなら直さず買い替えたりしますが、値の張るイスであれば修理しながら大事に長く使う。親から子へ、そして孫へずっと使い続けていくような使い方がいいと思うんですよ。いつかそのような100年物のブナ材をこの森林から切り出せるといいなあと思いつつ、今後も活動を続けていきます。



これからも活動を続けていきます!!